

囲碁入門講座通信 令和2年 第20号



報告:有楽斎

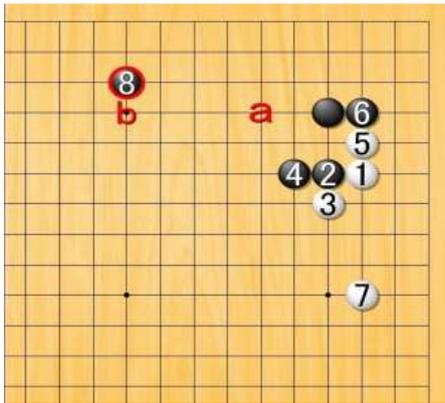
毎月第二日曜日の午後1時半から午後4時ごろまで、朝日2丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいるのですが、新型コロナウイルス感染症を防ぐために、「三つの密」密閉・密集・密接を避けがたく、まことに口惜しところですが、**現在休局中**です。(棋士名は椿に因んだ名をニックネームとして表記しています)

今号も、入門者用に囲碁用語を少々ご案内したいと思います。(監修:太神楽(だいかくら) 師匠)

囲碁用語 ツケノビ定石で覚える筋と形

星のツケノビ定石はいきなり石が接触するだけに、いかにも「本格的な定石を覚えた」という気分になるでしょう。ただし、この定石を使うには、手順に現れない水面下の「ある変化」を知っていないと不安になります。実はこの「ある変化」に含まれるいくつかの形や手筋を知ることに、ツケノビ定石を覚える意味があるのです。まずは定石の手順を示します。

最も一般的なツケノビ定石



1図 ツケにはハネよ、ハネにはノビよ

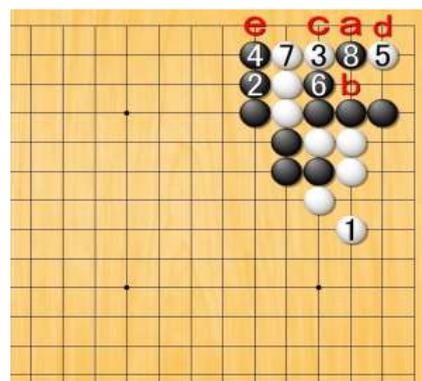
星に力かった白石に黒2とツケて、ツケノビ定石の始まりです。「ツケにはハネよ」の格言通り白3。次の黒4も「ハネにはノビよ」の格言に従っています。白5のノビ、黒6のオサエから黒8までが定石です。

黒8でaと打つのは堅過ぎて、このように広く構えるのがよいのです。黒8はbと高く星に打つ手もあります。上辺の右半分はこのまま黒地になるわけではありませんが、白が打ち込んできたらそれを迎え討ちます。



2図 白の出切りへの対策

前図の白7で、白1から3と出切る手は無理な手ですが、対策を知らないとひどい目に遭うかもしれません。黒4のアテから黒6と、何もせず「黙ってサガる」のがこの際の好手です。黒aのキリで白三子を取る手と、黒bとオサエ、切ってきた白2子を取る手を見合いにしています。



3図 ポイントはサガリとホウリコミ

白1と下の三子を守れば、黒は2~8まで白2子を取りに行きます。途中、白3のコスミに黒4のサガリが重要な手で、白5のトビで黒が攻め合いに負けそうに見えますが、黒6とこちらからアテで黒8で決まっています。

このあと一つだけ注意しなければならないのは、白a、黒b、白cとやってくる手です。黒dのホウリコミから黒eで、攻め合いは一手勝ちになります。以下次号